

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月12日
【四半期会計期間】	第91期第2四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	帝国繊維株式会社
【英訳名】	TEIKOKU SEN-I Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 飯田 時章
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋二丁目1番10号
【電話番号】	03(3281)3022（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 長谷川 芳春
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋二丁目1番10号
【電話番号】	03(3281)3022（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 阪田 繁
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第2四半期 連結累計期間	第91期 第2四半期 連結累計期間	第90期
会計期間	自平成27年1月1日 至平成27年6月30日	自平成28年1月1日 至平成28年6月30日	自平成27年1月1日 至平成27年12月31日
売上高 (千円)	13,080,956	11,990,767	27,806,153
経常利益 (千円)	1,339,522	1,242,093	4,092,548
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	810,232	795,293	2,611,492
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	96,658	844,448	1,530,179
純資産額 (千円)	40,677,884	42,282,366	42,111,257
総資産額 (千円)	53,499,056	54,326,627	56,391,743
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	30.95	30.38	99.75
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	30.70	30.03	98.86
自己資本比率 (%)	75.54	77.14	74.21
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,379,862	4,129,881	89,779
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,726,207	602,339	3,642,644
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	798,598	820,709	827,305
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	9,111,943	10,416,423	7,709,590

回次	第90期 第2四半期 連結会計期間	第91期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	6.74	5.93

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、積極的な経済・金融政策を背景に、企業業績や雇用環境など緩やかな回復が続きましたが、海外経済の不確実性の高まりによる為替市場や株式市場への影響なども懸念され、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社の主要事業である防災の分野では、首都直下地震・南海トラフ地震など、これまでにない大規模な災害が発生する懸念が高まりつつあるなかで、国・地方自治体はもとより、エネルギー・産業基盤を担う民間大手企業など、官民挙げての防災・減災対策が進められています。

この4月に発生した熊本地震をはじめ全国各地で頻発している地震や活発化する火山活動、異常気象に端を発した想定を上回る大雨・暴風雨などの自然災害、湾岸地帯に展開している石油コンビナートなどエネルギー・産業基盤における災害への対応のほか、ラグビーワールドカップや東京オリンピックの開催に向けたテロ対策など、かつてない「防災の時代」を迎えています。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、ほぼ見込み通りの業績を挙げることが出来ました。通期におきましても、期初に発表しております業績予想に沿った相応の実績を挙げ得るものと考えております。

官民挙げての防災・減災の流れを受けて、防災事業の裾野は格段に広がっており、総合防災事業を事業の中核に据える当社グループと致しましては、今年、最終年度を迎えます中期経営計画「帝国繊維（テイセン）2016」の完遂を通して、大規模自然災害への十全な対応、エネルギー施設・産業基盤・重要施設の安全対策のほか、今後懸念されるテロ対策・薬物対策・新たな感染症対策など、その社会的使命を果たしてまいる所存です。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の概況は以下のとおりであります。

< 防災 >

エネルギー・産業基盤災害向け防災特殊車両や空港用セキュリティ商材のほか、防火衣や民間企業向け防護服などが売上を伸ばしましたが、前年同期の売上に貢献した空港用化学消防車などの落ち込みもあり、売上高は93億2千3百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

< 繊維 >

リネン（麻）を中心とした原糸・生地販売などの売上が伸び悩んだことに加え、官公庁向け繊維資材の落ち込みなどから、売上高は24億4百万円（前年同期比20.0%減）となりました。

< 不動産賃貸・その他 >

不動産賃貸事業は概ね順調に推移しておりますが、その他事業に含まれておりました遊技場の経営を平成27年6月末をもって中止したことから、売上高は2億6千2百万円（前年同期比17.5%減）となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は119億9千万円（前年同期比8.3%減）、営業利益は10億4千6百万円（同10.9%減）、経常利益は12億4千2百万円（同7.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億9千5百万円（同1.8%減）となりました。

（2）財政状態に関する分析

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産が20億6千5百万円減少し、543億2千6百万円となりました。

これは主として、売上債権の減少などがあったことによるものです。

負債は、仕入債務の減少や税制改正に伴う法定実効税率の引き下げによる繰延税金負債の減少などがあり、前連結会計年度末と比べ22億3千6百万円減少し、120億4千4百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加や法定実効税率の引き下げによるその他有価証券評価差額金の増加などがあり、前連結会計年度末と比べ1億7千1百万円増加し、422億8千2百万円となりました。

この結果、自己資本比率は77.1%となりました。

(3) キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、27億6百万円増加し、104億1千6百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

< 営業活動によるキャッシュ・フロー >

営業活動による資金の収入は、売上債権の回収が進んだことなどにより、前年同期に比べ27億5千万円増加し、41億2千9百万円となりました。

< 投資活動によるキャッシュ・フロー >

投資活動による資金の支出は、定期預金での運用や鹿沼工場の設備投資、販促用機材の購入などにより、6億2百万円(前年同期は37億2千6百万円の資金の収入)となりました。

< 財務活動によるキャッシュ・フロー >

財務活動による資金の支出は、配当金の支払や長期借入金の返済などがあり、前年同期と同水準の8億2千万円となりました。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は以下のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者について、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資する者が望ましく、また、最終的には株主の皆様の意思に基づき決定されるべきであると考えておりますが、十分な時間や情報を提供せず株主共同の利益を毀損するもの等の当社株式の大規模な買付行為や買付提案を行う者は、例外的に上記決定を支配する者として適当ではないと判断します。

基本方針の実現に資する取組み

当社グループは創業時から受け継がれた「社会の安全、生活文化の向上に貢献する企業」を基本理念とし、戦前は製麻事業を中心に広く国家的貢献を果たし、また、近時は総合防災事業とリネン事業という2つの価値ある事業を通じて、1世紀以上に亘り、社会・国民の安心・安全と良質な生活文化の向上に貢献してまいりました。

当社は、これらの事業活動を通じて、「一味ちがった優れた企業」「発展し成長を続ける企業」「社会や公共に大きく貢献する企業」の実現を目指しており、企業価値の長期安定的な向上を図ることを、経営の最重要課題として認識しております。

平成26年度からスタートした第三次中期経営計画「帝国繊維(テイセン)2016」では、

「大規模災害への備えは社会の急務 我々はその事業をもって 役割を完遂しよう！」

を目標に、グループ一丸となって取り組んでおります。

東日本大震災以降、当社を取り巻く事業環境が大きく変化し、防災を巡る考え方も大きく変わってきています。時代の急務である、大規模自然災害や大規模産業災害、テロなど特殊災害への備えに向けて、当社の社会的使命も益々重くなっていることから、当社はその事業をもって、社会的役割・責任を果たすことで社会に貢献してまいります。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

以上の基本方針に照らしそのような不適切な者によって当社の方針決定が支配されることを防止すべく、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報や時間を確保すること等を目的として、当社は、平成23年3月30日開催の第85期定時株主総会においてその導入について承認いただき、その後、平成26年3月27日開催の第88期定時株主総会において継続承認をいただき、当社株式の大規模買付行為(議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為)に関する対応方針(以下「本対応方針」といいます。)を定め、また、本対応方針の運用に関わり、大規模買付行為を行う際の情報提供等に関するルール(以下「大規模買付ルール」といいます。)を定めております。

大規模買付ルールの内容は、大規模買付者による必要かつ十分な情報(大規模買付者の概要や大規模買付行為の目的、買付後の経営方針等の情報であり、株主の皆様判断に必要と認める場合に公表することがあります。)提供に基

づき、また、社外監査役等により構成される当社から独立した特別委員会の勧告を踏まえて、当社取締役会が大規模買付行為を評価検討するというものです。

当社は、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守せず、かつ、当社の企業価値や株主共同の利益を確保するために必要な場合や、大規模買付ルールは遵守されるものの、当社の企業価値や株主共同の利益を著しく損なうと判断する場合（大規模買付者がいわゆるグリーンメーラーである場合等）には、特別委員会の勧告を最大限尊重した上で、当社新株予約権の無償割当て（効果を勘案して行使期間や行使条件、取得条項を設けることがあります。）を含む相当な対抗措置を発動することがあり、発動を決定した場合には、対抗措置を講ずるほか、適用ある法令・金融商品取引所規則等に従い適時適切な開示を行います。

なお、本対応方針は、平成29年3月開催予定の定時株主総会の終結の時又は当社の定時株主総会若しくは取締役会において廃止する旨の決議が行われる時まで有効とし、今後の本対応方針の継続についても、同様に、定時株主総会の承認を得ることとしております。

対抗措置が基本方針に沿うものであり、当社の株主の共同の利益を損なうものではなく、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないこと

本対応方針が、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容を検討した上で作成したものであり、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則を充足していること、当社の大規模買付行為に対する対抗措置が、特別委員会の勧告を受けるほか、あらかじめ定められた合理的客観的発動条件が充足されなければ発動されないように設定されていること、大規模買付ルールの制定及び継続について、株主総会にて株主の皆様のご承認をいただいていること等から、対抗措置は、基本方針に沿うものであり、また、当社の株主の共同の利益を損なうものでもなく、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものでもありません。

なお、以上の詳細につきましては当社ウェブサイト（株主・投資家情報の「IRニュース一覧（2014年2月14日付け掲載）」）をご参照ください。

（５）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は42百万円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	97,600,000
計	97,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日 現在発行数(株) (平成28年8月12日)	上場金融商品取引所名又 は登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	27,121,400	27,121,400	東京証券取引所市場第一部	(注)1
計	27,121,400	27,121,400	-	-

(注)1. 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、平成28年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

当第2四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	平成28年3月30日（取締役会決議）
新株予約権の数	98個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	- 個
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	98,000株（注）
新株予約権の行使時の払込金額	株式1株当たりの行使価額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。
新株予約権の行使期間	平成28年4月15日～平成58年4月14日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1,000株につき 1,147,000円 資本組入額 1,000株につき 573,500円
新株予約権の行使の条件	当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から1ヶ月を経過する日までの期間に限り、新株予約権を行使できる。但し、相続により新株予約権を承継した新株予約権者については、この限りでない。新株予約権を行使する場合、保有する全ての新株予約権を一括して行使する。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

（注）各新株予約権の目的である株式の数（以下「付与株式数」という。）は、1,000株とする。

割当日後、当社が当社普通株式の株式分割（当社普通株式の無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。）又は株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割又は株式併合の比率

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。但し、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降これを適用する。また、上記の他、割当日後、当社が合併又は会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	-	27,121,400	-	1,387,098	-	759,678

(6) 【大株主の状況】

平成28年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿 1 - 2 6 - 1	1,587	5.85
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町 1 - 5 - 5	1,295	4.78
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町 1 - 4 - 2	1,200	4.42
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内 2 - 1 - 1	1,000	3.69
ヒューリック株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬町 7 - 3	936	3.45
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 1 1	838	3.09
西松建設株式会社	東京都港区虎ノ門 1 - 2 3 - 1	800	2.95
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR:FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱東京U F J 銀行 決済事業部)	245 SUMMER STREET BOSTON MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内 2 - 7 - 1)	800	2.95
株式会社モリタホールディングス	大阪府大阪市中央区道修町 3 - 6 - 1	790	2.91
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲 1 - 2 - 1	598	2.20
計	-	9,845	36.30

(注) 上記のほか、自己株式が942千株あります。

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 942,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,148,900	261,489	-
単元未満株式	普通株式 30,400	-	-
発行済株式総数	27,121,400	-	-
総株主の議決権	-	261,489	-

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
帝国繊維株式会社	東京都中央区日本橋2-1-10	942,100	-	942,100	3.47
計	-	942,100	-	942,100	3.47

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,062,300	11,169,647
受取手形及び売掛金	8,993,126	3,660,048
有価証券	9,999,807	9,999,975
商品及び製品	3,086,761	3,011,287
仕掛品	907,646	967,961
原材料及び貯蔵品	498,977	601,106
繰延税金資産	103,699	232,958
その他	281,905	579,976
貸倒引当金	371	403
流動資産合計	31,933,852	30,222,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,842,777	1,790,808
機械装置及び運搬具(純額)	347,080	319,923
工具、器具及び備品(純額)	180,450	197,599
土地	261,480	261,480
建設仮勘定	516,527	525,218
有形固定資産合計	3,148,315	3,095,029
無形固定資産		
借地権	899	899
その他	53,615	47,574
無形固定資産合計	54,514	48,473
投資その他の資産		
投資有価証券	20,862,508	20,559,218
繰延税金資産	30,207	33,619
その他	362,345	370,887
貸倒引当金	-	3,159
投資その他の資産合計	21,255,060	20,960,566
固定資産合計	24,457,891	24,104,070
資産合計	56,391,743	54,326,627

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,931,107	2,757,530
1年内返済予定の長期借入金	77,200	77,200
未払法人税等	70,016	554,890
役員賞与引当金	88,000	44,000
その他	694,809	742,065
流動負債合計	5,861,134	4,175,686
固定負債		
長期借入金	78,600	40,000
長期預り保証金	921,838	892,082
繰延税金負債	6,587,534	6,136,831
退職給付に係る負債	94,928	118,949
資産除去債務	119,458	119,499
長期末払金	328,830	328,830
その他	288,160	232,381
固定負債合計	8,419,351	7,868,575
負債合計	14,280,486	12,044,261
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387,098	1,387,098
資本剰余金	761,469	761,469
利益剰余金	26,395,036	26,404,946
自己株式	374,113	374,377
株主資本合計	28,169,489	28,179,135
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,706,346	13,784,215
繰延ヘッジ損益	28,723	57,436
その他の包括利益累計額合計	13,677,623	13,726,778
新株予約権	264,144	376,452
純資産合計	42,111,257	42,282,366
負債純資産合計	56,391,743	54,326,627

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1月 1日 至 平成27年 6月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日)
売上高	13,080,956	11,990,767
売上原価	9,959,826	8,979,727
売上総利益	3,121,129	3,011,039
販売費及び一般管理費	1,946,461	1,964,960
営業利益	1,174,667	1,046,078
営業外収益		
受取利息	6,741	3,224
受取配当金	147,837	202,420
持分法による投資利益	417	-
その他	12,584	10,306
営業外収益合計	167,580	215,951
営業外費用		
支払利息	2,549	1,830
租税公課	-	6,125
減価償却費	-	4,783
持分法による投資損失	-	611
為替差損	-	5,456
その他	177	1,130
営業外費用合計	2,726	19,936
経常利益	1,339,522	1,242,093
特別利益		
固定資産売却益	17	-
特別利益合計	17	-
特別損失		
固定資産処分損	1,195	1,715
その他	7,328	-
特別損失合計	8,523	1,715
税金等調整前四半期純利益	1,331,016	1,240,377
法人税、住民税及び事業税	540,313	583,995
法人税等調整額	19,529	138,910
法人税等合計	520,784	445,084
四半期純利益	810,232	795,293
親会社株主に帰属する四半期純利益	810,232	795,293

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	810,232	795,293
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	634,268	77,868
繰延ヘッジ損益	79,305	28,713
その他の包括利益合計	713,573	49,155
四半期包括利益	96,658	844,448
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	96,658	844,448

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,331,016	1,240,377
減価償却費	168,789	167,323
貸倒引当金の増減額(は減少)	72	3,190
受取利息及び受取配当金	154,579	205,644
支払利息	2,549	1,830
持分法による投資損益(は益)	417	611
役員賞与引当金の増減額(は減少)	31,500	44,000
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	4,423	24,020
株式報酬費用	123,305	112,308
固定資産処分損益(は益)	1,177	1,715
売上債権の増減額(は増加)	2,856,808	5,280,893
たな卸資産の増減額(は増加)	552,252	86,969
仕入債務の増減額(は減少)	1,709,164	2,623,618
預り保証金の増減額(は減少)	29,851	29,776
長期未払金の増減額(は減少)	400	-
その他の流動資産の増減額(は増加)	7,311	19,669
その他の流動負債の増減額(は減少)	1,586	105,444
その他	73,365	65,109
小計	3,037,849	3,902,266
利息及び配当金の受取額	154,749	207,338
利息の支払額	2,543	1,713
法人税等の還付額	-	137,588
法人税等の支払額	1,810,192	115,598
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,379,862	4,129,881
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,352,219	2,753,224
定期預金の払戻による収入	2,351,737	2,352,709
有価証券の取得による支出	7,999,592	7,999,949
有価証券の償還による収入	12,000,000	8,000,000
有形固定資産の取得による支出	265,811	141,769
有形固定資産の売却による収入	17	-
有形固定資産の除却による支出	2,558	649
無形固定資産の取得による支出	3,936	3,950
投資有価証券の取得による支出	-	52,679
貸付金の回収による収入	40	30
敷金及び保証金の差入による支出	1,469	2,856
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,726,207	602,339
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	720,000	720,000
短期借入金の返済による支出	720,000	720,000
長期借入金の返済による支出	16,600	38,600
自己株式の取得による支出	484	264
配当金の支払額	781,513	781,845
財務活動によるキャッシュ・フロー	798,598	820,709
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,307,471	2,706,832
現金及び現金同等物の期首残高	4,804,471	7,709,590
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,111,943	10,416,423

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第2四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)
 該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)
 該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうちの主要な費目は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)
役員報酬及び給料手当	739,540千円	718,339千円
賞与	167,229	171,589
役員賞与引当金繰入	40,500	44,000
運送費及び保管費	113,946	104,152
減価償却費	56,756	67,027
旅費交通費	123,110	115,827
退職給付費用	17,422	19,306
株式報酬費用	123,305	112,308
賃借料	103,892	108,061

2. 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)

当社グループの売上高は防災という事業の性格から、第2、第3四半期連結会計期間に比べ、第1、第4四半期連結会計期間の売上高が増加する傾向にあり、それに伴い業績にも季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)
現金及び預金勘定	8,464,163千円	11,169,647千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	2,352,219	2,753,224
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する有価証券	3,000,000	2,000,000
現金及び現金同等物	9,111,943	10,416,423

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年3月26日 定時株主総会	普通株式	785,392	30	平成26年12月31日	平成27年3月27日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年3月30日 定時株主総会	普通株式	785,382	30	平成27年12月31日	平成28年3月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年6月30日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	防災	繊維	不動産賃貸	その他	計	調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	9,758,859	3,003,681	227,443	90,971	13,080,956	-	13,080,956
セグメント間の内部売上高又は振替高	10,641	28,952	9,300	-	48,894	48,894	-
計	9,769,501	3,032,634	236,743	90,971	13,129,850	48,894	13,080,956
セグメント利益	1,378,179	277,076	163,204	825	1,819,286	644,618	1,174,667

(注)1.セグメント利益の調整額 644,618千円には、セグメント間取引消去1,362千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 645,981千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益の合計と調整額の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年6月30日)

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	防災	繊維	不動産賃貸	その他	計	調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	9,323,726	2,404,264	246,455	16,321	11,990,767	-	11,990,767
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,642	19,692	8,400	-	29,735	29,735	-
計	9,325,368	2,423,957	254,855	16,321	12,020,502	29,735	11,990,767
セグメント利益	1,355,843	156,857	183,693	4,861	1,701,256	655,177	1,046,078

(注)1.セグメント利益の調整額 655,177千円には、セグメント間取引消去917千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 656,095千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益の合計と調整額の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2.報告セグメントの変更等に関する事項

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当第2四半期連結会計期間に「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」を適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

(金融商品関係)

前連結会計年度末に比べて著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

前連結会計年度末に比べて著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	30円95銭	30円38銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	810,232	795,293
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	810,232	795,293
普通株式の期中平均株式数(株)	26,179,686	26,179,336
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	30円70銭	30円03銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	212,112	303,783
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月 8日

帝国繊維株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 日高 真理子 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千足 幸男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている帝国繊維株式会社の平成28年1月1日から平成28年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、帝国繊維株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。